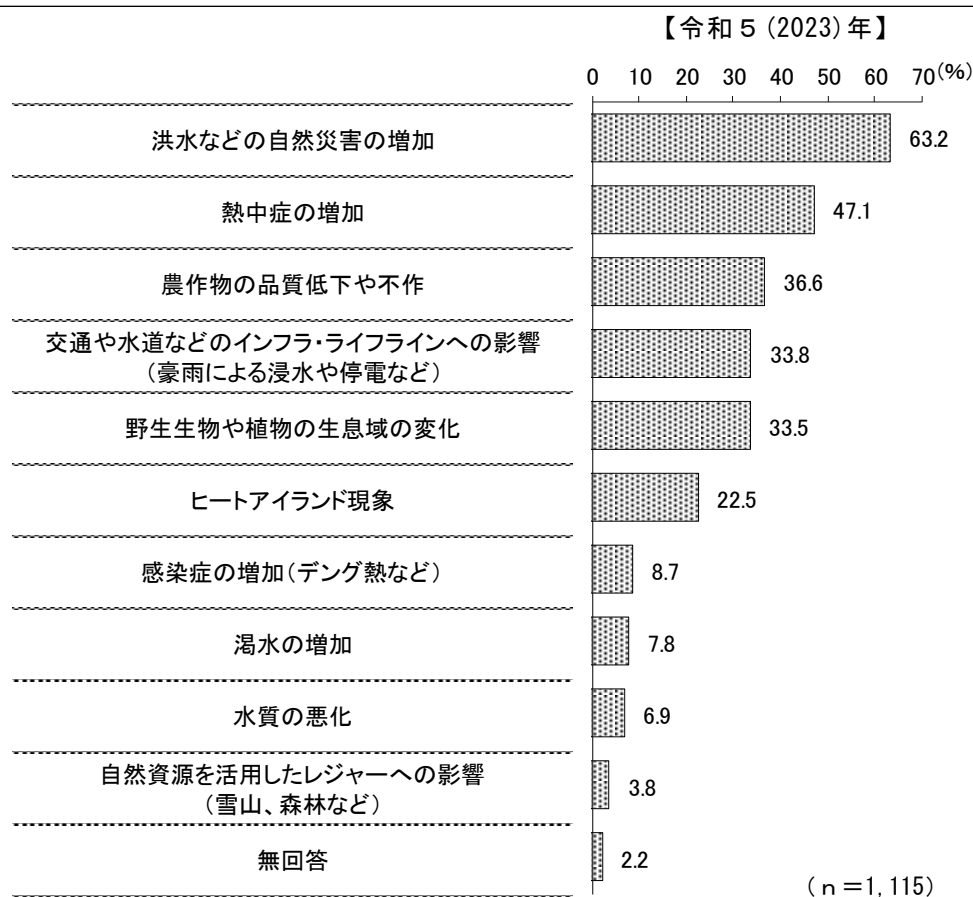


9 気候変動対策について

(1) 気候変動による影響について知っていること

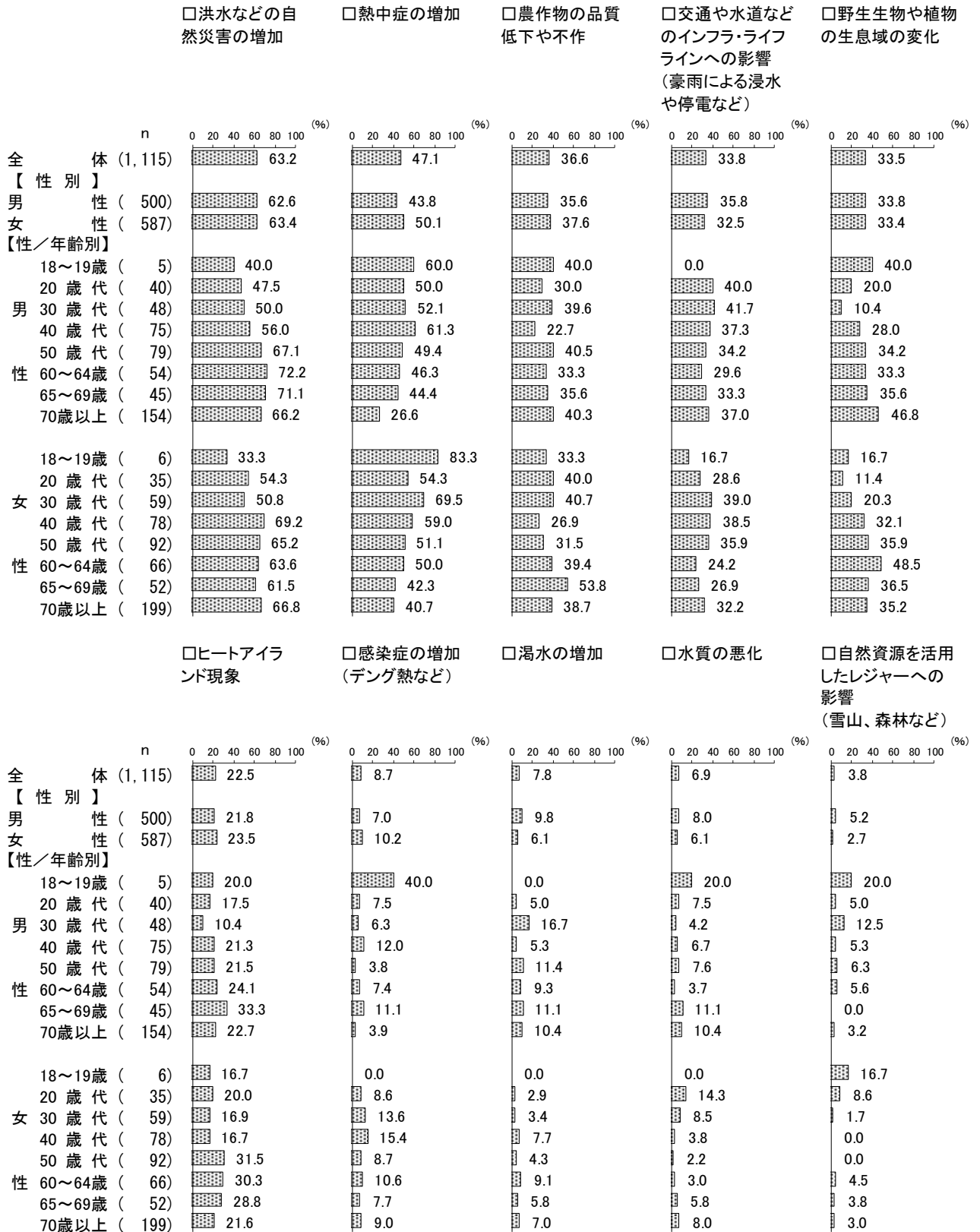
問26 近年、地球温暖化による気候変動の影響と思われる事象などが、栃木県でも発生しています。あなたが強く感じている気候変動による影響は何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

1	農作物の品質低下や不作	36.6%	8	自然資源を活用したレジャー	
2	水質の悪化	6.9		への影響（雪山、森林など）	3.8%
3	渇水の増加	7.8	9	交通や水道などのインフラ・ライフ	
4	野生生物や植物の生息域の変化	33.5		ラインへの影響	
5	洪水などの自然災害の増加	63.2		（豪雨による浸水や停電など）	33.8
6	熱中症の増加	47.1	10	ヒートアイランド現象	22.5
7	感染症の増加（デング熱など）	8.7		（無回答）	2.2



全体で見ると、「洪水などの自然災害の増加」（63.2%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「熱中症の増加」（47.1%）、「農作物の品質低下や不作」（36.6%）、「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」（33.8%）、「野生生物や植物の生息域の変化」（33.5%）の順となっている。

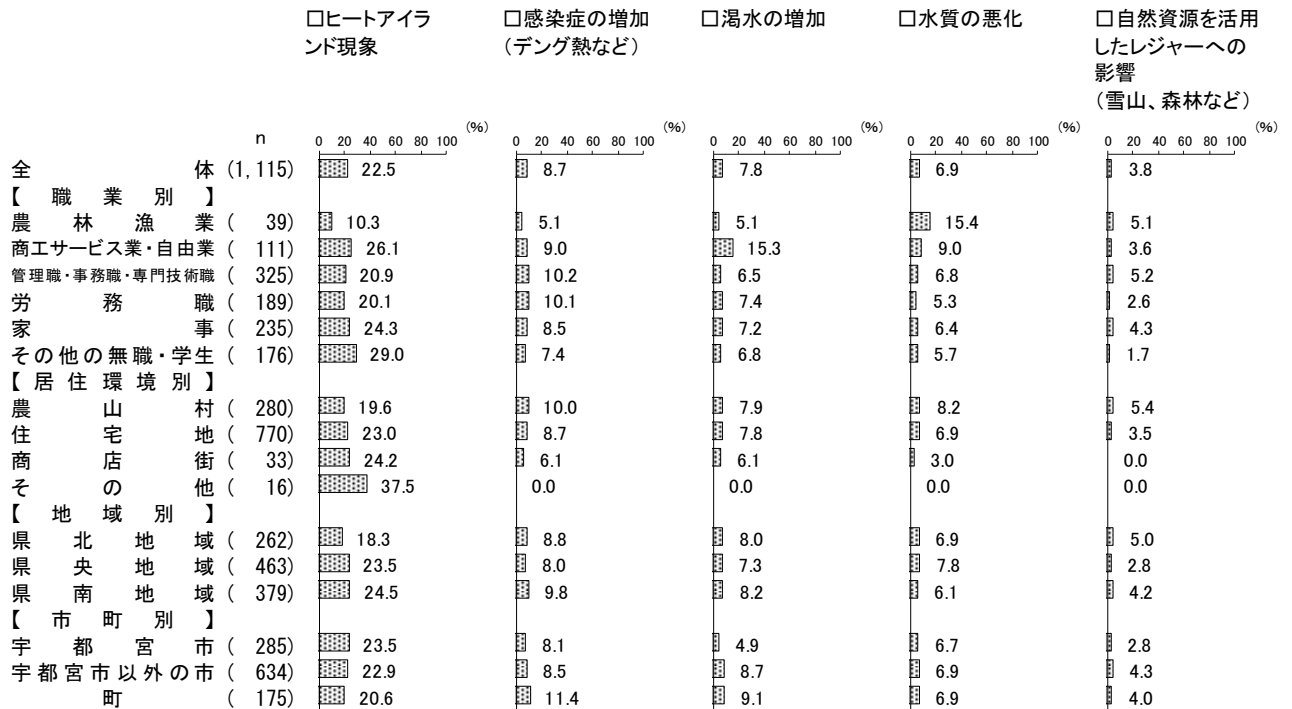
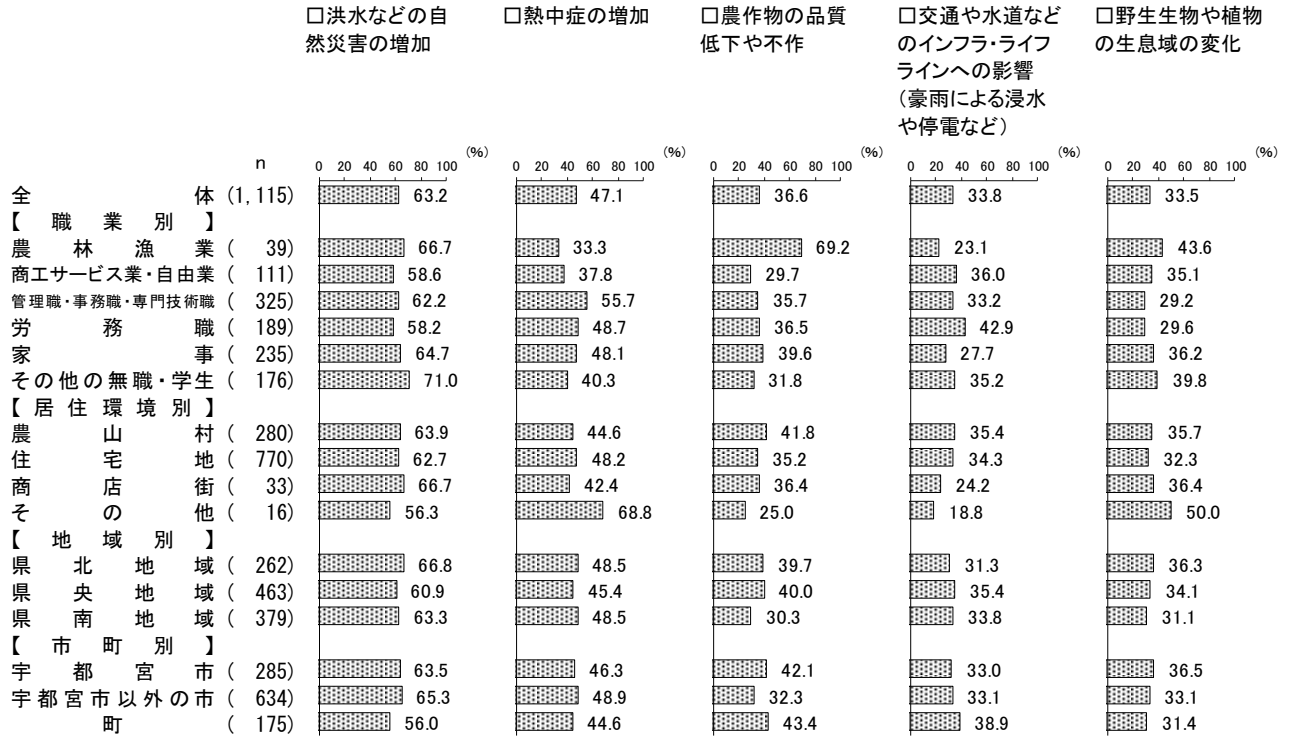
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「熱中症の増加」では〈女性〉(50.1%)が〈男性〉(43.8%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「熱中症の増加」では〈女性30歳代〉が69.5%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性65~69歳〉が53.8%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈女性60~64歳〉が48.5%と高くなっている。「ヒートアイランド現象」では〈男性65~69歳〉が33.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「洪水などの自然災害の増加」では〈その他の無職・学生〉が71.0%と高くなっている。「熱中症の増加」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が55.7%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈農林漁業〉が69.2%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」では〈労務職〉が42.9%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈農林漁業〉が43.6%と高くなっている。「ヒートアイランド現象」では〈その他の無職・学生〉が29.0%と高くなっている。「渇水の増加」では〈商工サービス業・自由業〉が15.3%と高くなっている。「水質の悪化」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈農山村〉が41.8%と高くなっている。

地域別で見ると、「農作物の品質低下や不作」では〈県南地域〉が30.3%と低くなっている。

市町別で見ると、「農作物の品質低下や不作」では〈町〉が43.4%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」では〈町〉が38.9%と高くなっている。

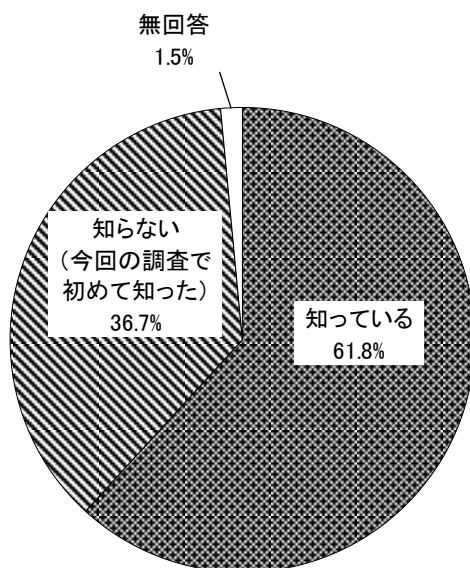
(2) 「カーボンニュートラル」という言葉の認知度

問27 気候変動に対処するためには、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量削減のための取組（緩和策）を行うことが必要です。あなたは、緩和策の長期的な目標である「カーボンニュートラル」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,115]

※ カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガス排出量を実質的にゼロにする考え方で、栃木県では、2050年までのカーボンニュートラル実現を目指し、県や事業者・県民の皆さんのオールとちぎで取り組んでいく行動などを条例に定めています（栃木県カーボンニュートラル実現条例：令和5年4月1日施行）。

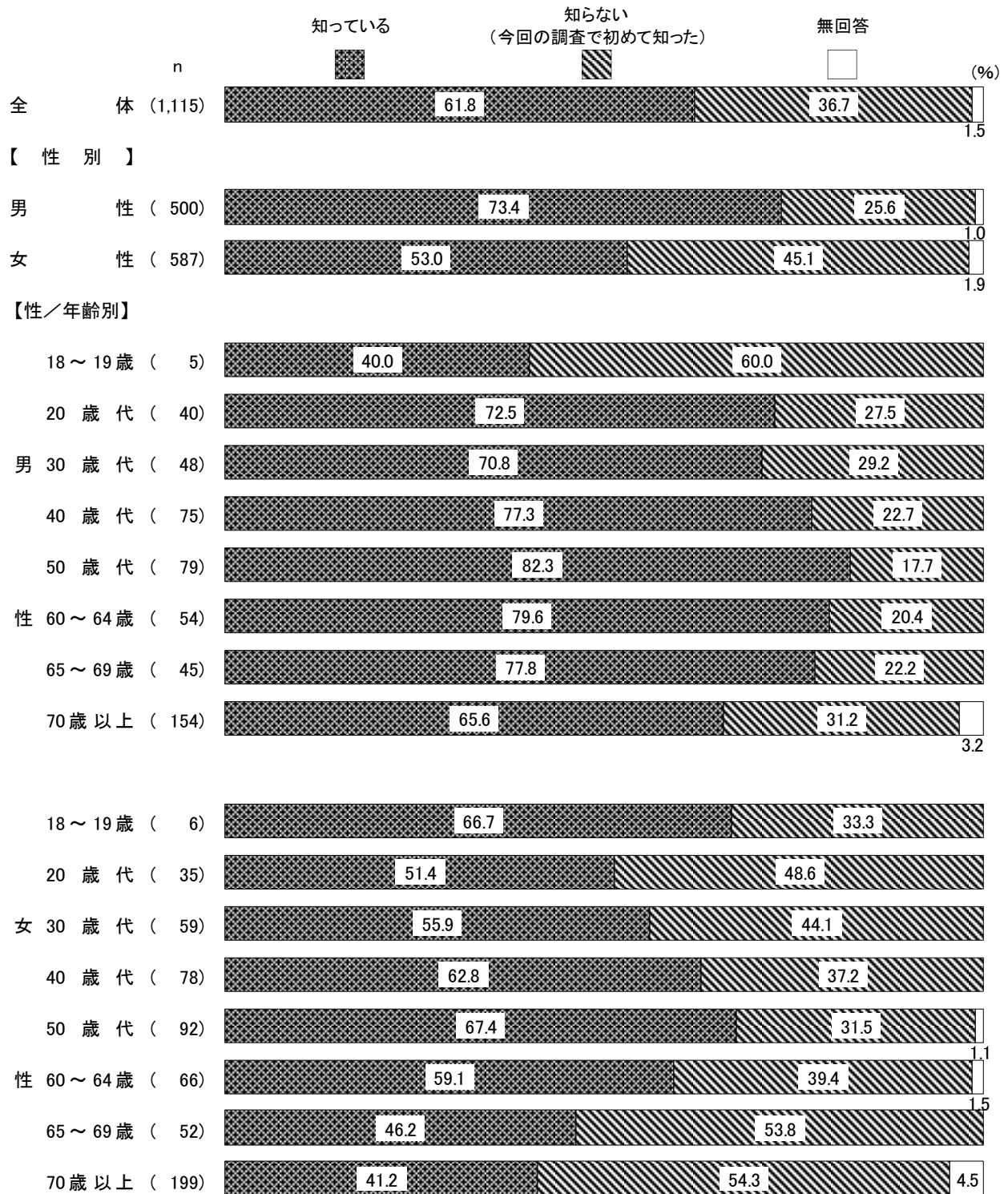
1 知っている	61.8%
2 知らない（今回の調査で初めて知った）	36.7
（無回答）	1.5



(n=1,115)

全体でみると、「知っている」(61.8%)が6割強、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(36.7%)が3割台半ばを超えている。

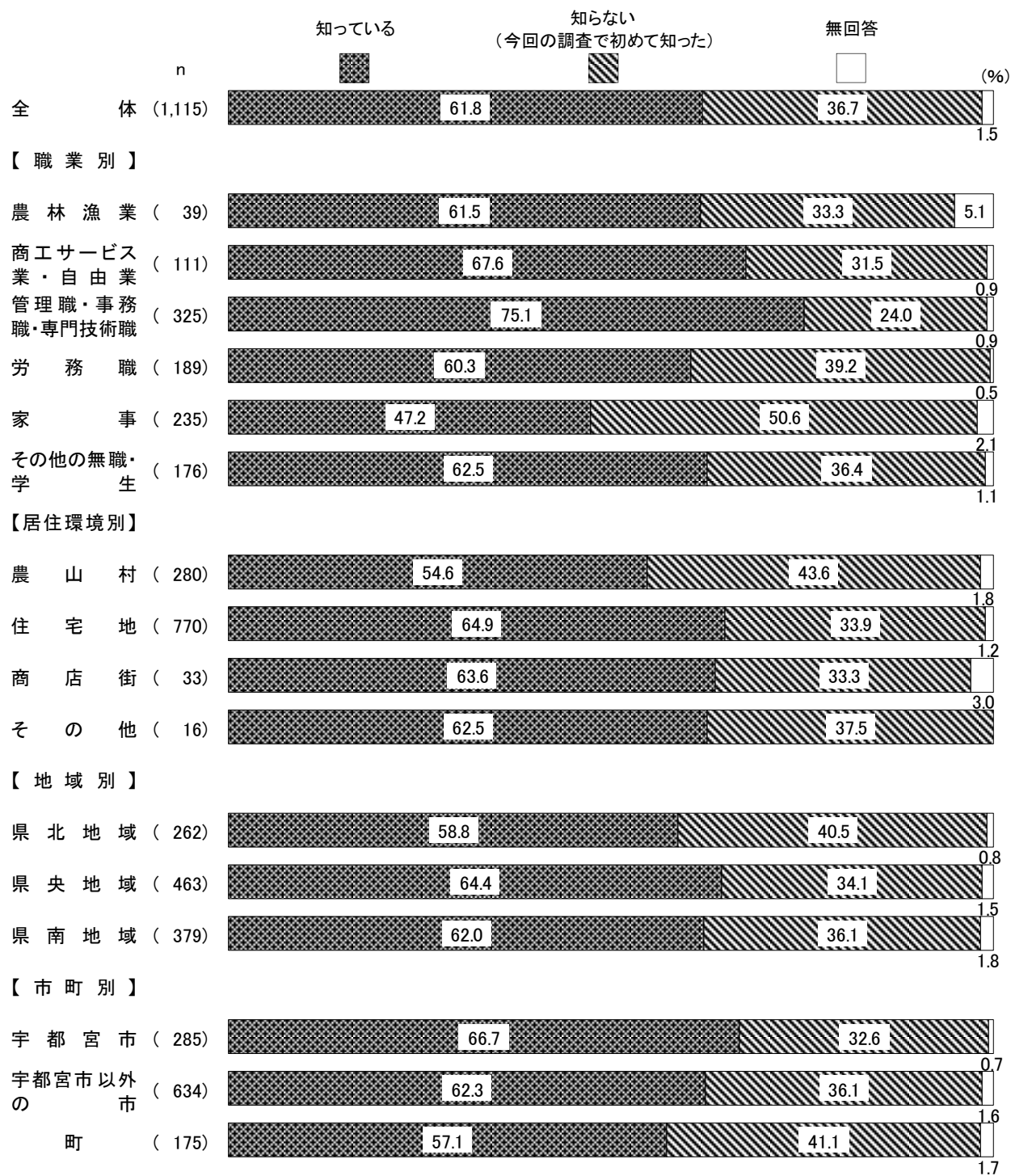
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(73.4%)が〈女性〉(53.0%)より20.4ポイント高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性〉(45.1%)が〈男性〉(25.6%)より19.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「知っている」では〈男性50歳代〉が82.3%、〈男性60～64歳〉が79.6%、〈男性65～69歳〉が77.8%、〈男性40歳代〉が77.3%、〈男性20歳代〉が72.5%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性70歳以上〉が54.3%、〈女性65～69歳〉が53.8%、〈女性20歳代〉が48.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が75.1%、〈商工サービス業・自由業〉が67.6%と高くなっている。一方、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈家事〉が50.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈農山村〉が43.6%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

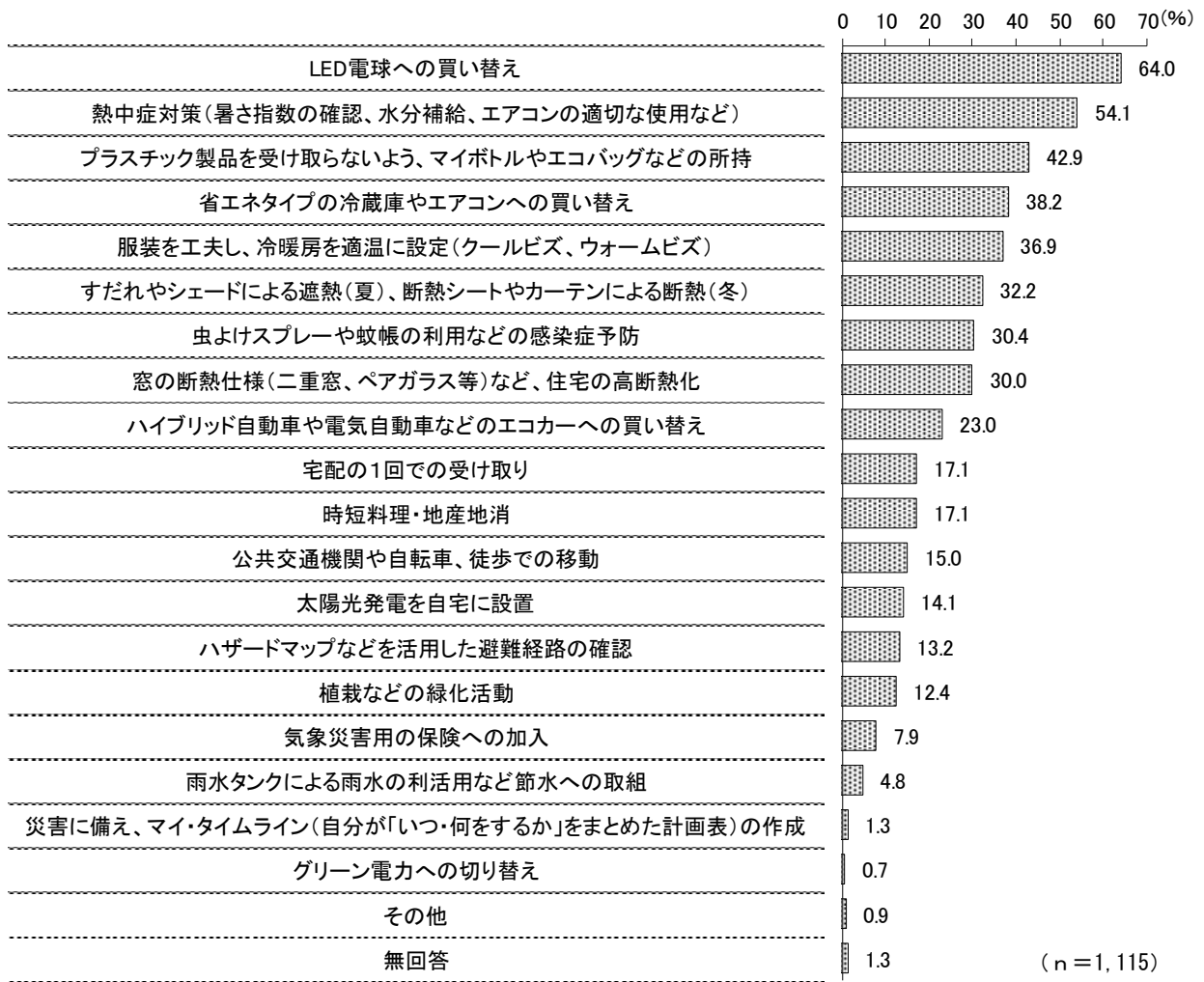
(3) 実際に行っている気候変動対策

問28 あなたが実際に行っている気候変動対策は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

※ 気候変動対策には、温室効果ガスの排出を削減する取組〔緩和策〕や気候変動の影響による被害を回避・軽減する取組〔適応策〕があります。

1	LED電球への買い替え	64.0%
2	省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え	38.2
3	窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化	30.0
4	公共交通機関や自転車、徒歩での移動	15.0
5	宅配の1回での受け取り	17.1
6	プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持	42.9
7	すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）	32.2
8	時短料理・地産地消	17.1
9	ハイブリッド自動車や電気自動車などのエコカーへの買い替え	23.0
10	服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）	36.9
11	太陽光発電を自宅に設置	14.1
12	グリーン電力への切り替え	0.7
13	植栽などの緑化活動	12.4
14	熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）	54.1
15	ハザードマップなどを活用した避難経路の確認	13.2
16	災害に備え、マイ・タイムライン（自分が「いつ・何をするか」をまとめた計画表）の作成	1.3
17	雨水タンクによる雨水の利活用など節水への取組	4.8
18	虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防	30.4
19	気象災害用の保険への加入	7.9
20	その他	0.9
	（無回答）	1.3

【令和5(2023)年】

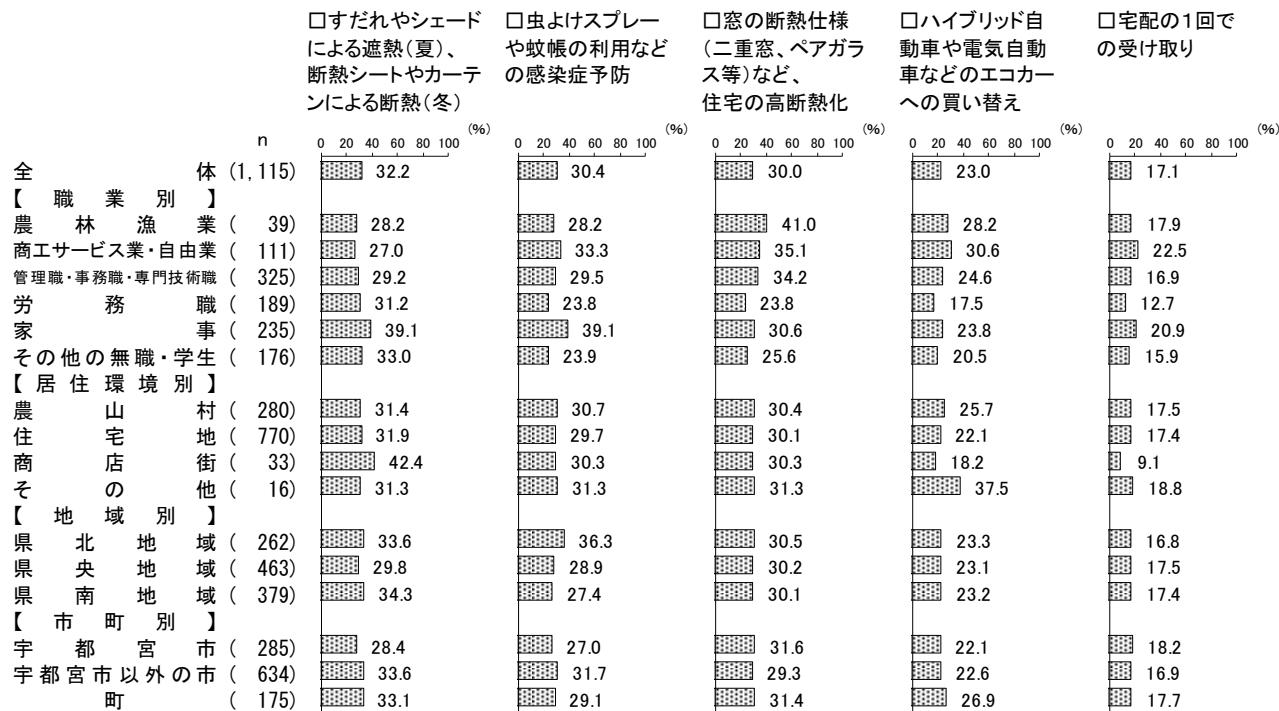
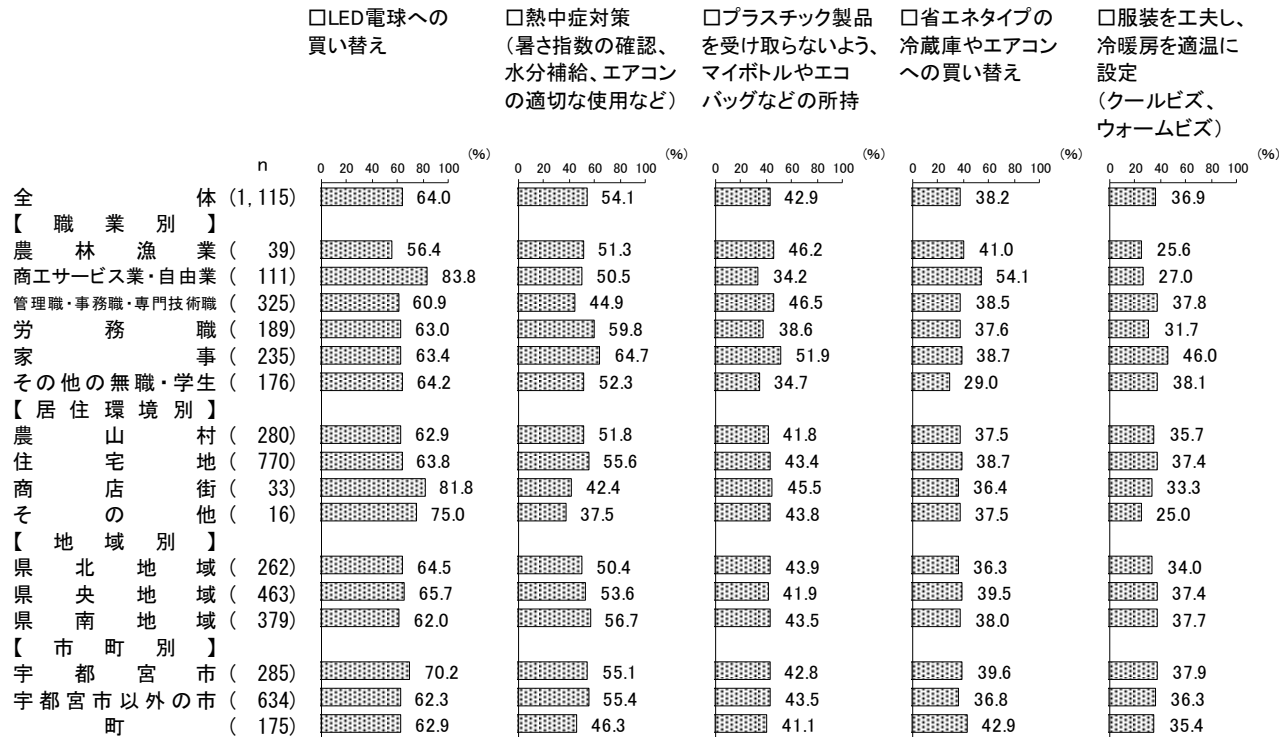


全体で見ると、「LED電球への買い替え」(64.0%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「熱中症対策(暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など)」(54.1%)、「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」(42.9%)、「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」(38.2%)、「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定(クールビズ、ウォームビズ)」(36.9%)、「すだれやシェードによる遮熱(夏)、断熱シートやカーテンによる断熱(冬)」(32.2%)、「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」(30.4%)、「窓の断熱仕様(二重窓、ペアガラス等)など、住宅の高断熱化」(30.0%)の順となっている。

トやカーテンによる断熱（冬）」では〈女性〉（37.8%）が〈男性〉（26.0%）より11.8ポイント高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈女性〉（41.9%）が〈男性〉（30.8%）より11.1ポイント高くなっている。一方、「ハイブリッド自動車や電気自動車などのエコカーへの買い替え」では〈男性〉（26.2%）が〈女性〉（21.1%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「LED電球への買い替え」では〈男性60～64歳〉が79.6%と高くなっている。「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」では〈女性70歳以上〉が69.8%と高くなっている。「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」では〈女性40歳代〉が60.3%と高くなっている。「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」では〈女性50歳代〉が55.4%と高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈女性70歳以上〉が48.2%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈女性60～64歳〉が43.9%と高くなっている。「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈女性40歳代〉が43.6%と高くなっている。「窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化」では〈女性50歳代〉が40.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別] (上位10項目)



職業別でみると、「LED電球への買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が83.8%と高くなっている。「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」では〈家事〉が64.7%と高くなっている。「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」では〈家事〉が51.9%と高くなっている。「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が54.1%と高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈家事〉が46.0%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈家事〉が39.1%と高くなっている。「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈家事〉が39.1%と高くなっている。「窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化」では〈農林漁業〉が41.0%と高くなっている。「ハイブリッド自動車

や電気自動車などのエコカーへの買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が30.6%と高くなっている。「宅配の1回での受け取り」では〈商工サービス業・自由業〉が22.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「LED電球への買い替え」では〈商店街〉が81.8%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈商店街〉が42.4%と高くなっている。

地域別でみると、「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈県北地域〉が36.3%と高くなっている。

市町別でみると、「LED電球への買い替え」では〈宇都宮市〉が70.2%と高くなっている。